

会議結果報告書

1. 会 議 名 令和7年度第1回印西市環境審議会
2. 日 時 令和7年5月9日（金） 10：00～11：30
3. 場 所 印西市役所会議棟2階 204会議室
4. 出席委員：岩井誠会長、井上委員、小熊委員、下野委員、岩井とし子委員、福留委員
松原委員、矢野委員

事 務 局：伊藤環境経済部長、富澤環境保全課長、稲葉環境保全課長補佐
増田保全係長、浅井主査補、及川主任主事

5. 傍 聴 者 1名

6. 配布資料

- ・会議次第
- ・市民意見公募手続の結果（ICNC2050（案））
- ・いんざいカーボンニュートラル・チャレンジ2050（案）
- ・いんざいカーボンニュートラル・チャレンジ2050（案）概要版
- ・いんざいカーボンニュートラル・チャレンジ2050について（答申）（案）

7. 内 容

- (1) 開会
- (2) 委嘱書の交付
- (3) 挨拶
- (4) 議事

- ①パブリックコメントの実施結果について説明

—事務局より、パブリックコメントの実施結果について説明—

議 長：只今の説明について意見やご質問はあるか。

委 員：意見番号5番の意見については、前回の審議会で意見を言わせていただいて、答申案の最後に同じ内容が入っているので、市民の方からも同じ意見が出てきているということで非常に安心した。市民の声もしっかり聞く形で進めてもらいたいと思うので、よろしく願いしたい。

議 長：他に意見やご質問はあるか。無いので、次の議題②に移る。

- ②いんざいカーボンニュートラル・チャレンジ2050（案）について

—事務局より、いんざいカーボンニュートラル・チャレンジ2050（案）について説明—

議 長：只今の説明について意見やご質問はあるか。

委 員：データセンターについて、あれだけの規模の施設が一つできるだけで、小さな県ぐらいのエネルギーを消費し、日本中から注目されるので、印西市としてしっかりレポートすべきである。全体の割合で言うと、一番大きなグループで、

総量が急増しているのも、ほぼデータセンターである。全国的にも特徴的な問題を抱えているので、もう少し踏み込んでもいい。特定事業所はクレジットなどを活用して努力していると思うが、それでも地域で発生する廃熱やエネルギー消費は大きい。エネルギーは全て熱になるので、地域で熱は間違いなく発生します。一方で住宅や民生部門では、冬は暖房、あるいは給湯のために多くのエネルギーを使っている。人口も増えつつある中で、ヒートポンプという言葉も出ているが、エネルギーの話も大事だが、人工排熱として膨大に出ているものの有効活用は、もっと進めていくべきである。エネルギー会社と共同で検討することや、昔の事例を参考にするなど、あるいはそのシステム自体を2050年目標に組み込むというのは、非常にアピールできる話ではないかと思う。全体としてほぼ全ての項目について丁寧に書かれていると思うが、大きな特徴的な問題については、もう一步踏み込んでもいいのではないかと思う。

議長：他に意見やご質問はあるか。

委員：110ページの(2)のところで、「印西市環境白書を作成しホームページで公表するほか」の後に、もう一度カーボンニュートラルの話が出てきて、「ホームページで幅広く公表することで」と、公表が2回出てきて、2回目の方だけに「幅広く」と入っている。これは1つにまとめて「公表する」と書くのではダメなのか。「幅広く」と後で書いていることに意味があるのであれば、そのご説明をいただいて、それが適切であれば良いのだが、こちらはいかがか。

事務局：印西市環境白書については、前年度の取り組み内容を点検評価して公表しているのですが、それとは別にカーボンニュートラルの取り組みの実施状況や、カーボンニュートラルの情報などを、白書に限らず、なるべくタイムリーに幅広く公表したいと考えているので、このような記載にしている。

議長：今の答弁でよろしいか。

委員：「幅広く」が今ひとつ分かりづらかったのである。適宜とか速やかに公表すると、そういう意味での「幅広く」ということでよろしいか。ホームページでの環境白書公表は年に1回か。このカーボンニュートラル実現についてのホームページでの「幅広く」というのは、速やかに公表するというような、速度感、迅速性という意味での「幅広く」ということか。

事務局：「幅広く」というのは、ホームページを使うこと自体がもう幅広く公表しているという認識もあるので、タイムリーに情報発信できればいいという思いが入っている。ここの記載については、見直しをさせていただきたい。

議長：他に意見やご質問はあるか。

委員：修正案のところで「特定事業所の活動の推進を呼びかける」とある。110ページで「様々な取り組みをホームページで」とあるが、特定事業所の取り組みや働きかけも、市の方で公表していくという想定か。

事務局：特定事業所については、国から目標や計画の公表が義務づけられているので、

個々の取り組みや目標については、各企業のホームページで公表されていたり、国の地球温暖化関係のホームページでも記載はされている。そのほかに、特定事業所に対しては、市として情報交換の場の構築など、対話の場を設定して、新しい技術の導入や、こういった取り組みをやっているかを聞いて、可能な限り、取り組みの公表や促進を進めていきたいと考えている。

議長：他に意見やご質問はあるか。

委員：58ページの市の率先行動の推進のところで、表の中の「公用車における環境性能に優れた自動車導入数」が令和5年度実績、41台となっているが、現在の市の所有車両における、これらの占める割合というのは把握しているか。

事務局：割合については手元にも資料がございません。分かり次第、説明させていただきたい。

委員：次回の会議がある時で結構である。印西市は、EV車は1台もないか。

事務局：リーフが1台と軽自動車サイズのサクラが2台で合わせて3台運用しております。

委員：クロネコヤマトの車には「EV」と車体表示がされている。郵便局の車にも車体表示がある。市では車体表示は、検討されているか。市民にアピールする姿勢がないと、このいんざいカーボンニュートラル・チャレンジ2050というのは達成できないのである。やはり市が率先してこういうことをしているので、皆さんもできるだけEV化を進めたり、省エネ車を利用したりということをお願いするきっかけにしたらと思うので、検討していただきたい。

事務局：貴重なご意見として受け止めさせていただく。今までやってこなかった理由を申し上げますと、ヤマトさんや郵便局さんの車は、一般車両を改造したタイプなので、外見では区別がつかないため、そういった意思表示をされているのかなと思う。市の場合は、通常の市販されている電気自動車をそのまま運用しているので、見た瞬間に電気自動車だと分かるものを運用していたので、表示という考えが漏れていた。参考にさせていただきたい。

議長：他に意見やご質問はあるか。無いので、次の議題③に移る。

③諮問に対する答申について

—諮問に対する答申について—

議長：只今の説明について意見やご質問はあるか。

委員：1番で「実効性のある計画を目指す視点から理解できる」とあるが、国としてはマイナス46%と言っているところを、市としてはそこまではいかないけれども、実効性を目指して40%にしたという意味か。特定事業所のグループ分けは、市の特徴を捉えたものだと思う。削減対策は特定事業所に頑張ってもらおうということだが、それを市が促進していくというのは難しい話になる。先ほど市が率先してというご意見もあったが、市が頑張る前に例えば、環境負荷の

低減についてもう少し丁寧な言い方で、廃熱の活用等を含めた環境負荷の低減を図るための検討を行うとともに、特定事業所にも提案するようにといった市の主体性が入ると良いのではないかな。

事務局：1番の「実効性のある計画」ですが、国は2013年度比で46%の削減を目指すという地球温暖化対策計画を定めているが、印西市は近年、事業者の進出が活発になっているので、全国的なものと比べると印西市は独自の状況があるため、国と同じではなく、印西市に沿った形での目標設定としている。こちらは、実現可能な目標として、2020年度比40%削減を設定しているので、その観点から「実効性のある計画」というような文章とした。2番について、廃熱の活用を含めた環境負荷の低減という記載を追加することについて、修正を検討させていただく。

議長：他に意見やご質問はあるか。

委員：このレポート全体としては非常によくできていると思う。少し先のこととして気になったのは、ガスの種類を随分絞り込んでいるが、最近のホールライフカーボンと言うか、ライフサイクルアセスメントの考え方である。単に使う時のCO2の話だけではなく、温暖化に影響のあるものを全部評価しましょうという流れの中で言うと、一つはホールライフカーボンという考え方である。今の建築物や住宅の寿命全体で建てるときにどんな材料を使っているか、廃棄する際にどんな環境負荷があるかまで含める。EUなどではもう規制に入っているところもある。そういう流れがあるので、ご注意いただきたい。ガスの種類を絞っているところですが、モントリオール議定書などで、特に冷媒管理について、冷蔵庫とか空調に使う冷媒の管理も組み込むことになっている。次のステップとしては、最近の国際条約では、代替フロンにするだけでなく、代替フロンにしたらオゾン層破壊係数はゼロになったけれども、その代替フロンのCO2に対する温暖化係数、5ページにもありましたGWP値が非常に大きいので、代替フロンも規制していこうと、その管理に対しては罰則も含めてという法体系にもなっている。特にデータセンターのような巨大な施設は、相当な比率が冷房で、その際に使っている冷媒の管理をしっかりとやるという意味でも、ハイドロフルオロカーボンまで含めて、この計画の守備範囲にされるというのは、今後のカーボンニュートラルとしては重要になってくると思うし、現時点でもそれを匂わせていいと思う、という2点である。ホールライフカーボンの話と、それから冷媒管理の話、この2つは、少なくとも先に向けては注意しておく必要があると思う。

事務局：この計画の対象としている温室効果ガスの種類についてですが、この計画はあくまで印西市域の計画になるので、発生源がほぼないハイドロフルオロカーボン類やパーフルオロカーボン類については、除外させていただいている。また、数値的にも、こちらの数値を把握することが非常に難しい状況ですので、

国の施策として削減していただくことになっているので、市の区域施策編では除外とさせていただいている。

委員：HFCや冷媒は、家庭のエアコンや冷蔵庫も、コンビニの冷蔵・冷凍設備も、カーエアコンもそうなので、実は民生部門で非常に身近にある。市内に巨大なプラントとしてはないという意味かもしれませんが、総量としては相当な割合を占めるので、ご注意ください方が良いかと思う。

事務局：ご意見については参考とさせていただく。

議長：他に意見やご質問はあるか。

委員：概要や、計画全体の事業者向けのところで「パートナー制度」という言葉が何回も出てくるのだが、この制度は具体的にどういうことをするのか教えていただきたい。概要版だと6ページで「パートナー制度に登録します」というのが事業者の取り組みのところにでていて、計画全体の方では95ページにある。制度的にはどんなことを、どのようにやってもらうのか、またそれをどのように評価して公表していくのかお聞きしたい。

事務局：95ページですが環境保全課とクリーン推進課が取り組み主体となっているところで、ゼロカーボンシティ宣言に企業として賛同して、具体的な取り組みを実施している事業者や団体を認定して、市のホームページで企業がゼロカーボンに向けた率先した行動をしていますという公表や、優れた取り組みについての表彰制度等の導入を今後検討していければと考えておりまして、他の自治体ではやっているところはあるのですが、印西市としてまだ具体的な計画はない。

委員：例えば連携制度や、報奨制度のようなものが含まれるということで、それを今後具体的に詰めていくという形か。

事務局：その通りである。

議長：他に意見やご質問はあるか。他になければ本日の議事はこれで終了させていただく。進行を事務局にお返しする。

(5) その他

事務局：先ほどの答申の内容や計画の修正につきましては、本年5月中に答申をいただいて、計画を策定したいと考えているので、修正案につきましては、岩井会長にご一任とさせていただきたいのですがよろしいか。

—異議なし—

(6) 閉会

以上

令和7年度第1回印西市環境審議会の会議録は、事実と相違ないことを承認する。

令和7年6月14日

印西市環境審議会 委員 福留 義之

印西市環境審議会 委員 矢野 秀和